

平成 21 年 3 月 31 日現在

研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2005～2008
 課題番号：17310139
 研究課題名（和文） 東北アジアにおけるユートピア思想の展開と地域の在り方についての総合的研究
 研究課題名（英文） Comprehensive Research on the Development of Utopian Thoughts in Northeast Asia and Visions for the Region
 研究代表者 山田 勝芳（YAMADA KATSUYOSHI）
 東北大学・東北アジア研究センター・名誉教授
 研究者番号 20002553

研究成果の概要：

東北アジア各地域の政権の正統性や地域の独自性を特徴づけている大小様々な政治的・社会的な各種ユートピア理念を探り、特に 20 世紀のボルシェヴィキ的共産主義国家では厳しい監視・検閲体制が自らのユートピア性を国内外に示すために機能していたが、それはトマス・モア『ユートピア』の精神と同様であり、ひいては中国古代以来存在した相互監視体制とも同性質のものであること、また日本におけるアジア主義も含めて、それらユートピア理念が地域の在り方に大きく影響していることを解明した。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2005 年度	5,500,000	0	5,500,000
2006 年度	4,300,000	0	4,300,000
2007 年度	2,500,000	750,000	3,250,000
2008 年度	1,800,000	540,000	2,340,000
年度			
総計	14,100,000	1,290,000	15,390,000

研究分野： 東北アジア地域研究・東洋史

科研費の分科・細目： 地域研究・地域研究

キーワード： ユートピア思想・東北アジア・地域の在り方

1. 研究開始当初の背景

研究代表者の山田が従来進めてきた中国のユートピア思想研究の一定の成果を基に考えたとき、それらが地域の在り方に様々な影響を与えていることを見出すことができたので、東北アジア地域研究の有用な方法として、各時代各地域の多様なユートピア思想が現在に至るまでの各地域の在り方にどのように関わっているかを解明することで、“東北アジアの地域研究”及び“日本と東北アジアの関係研究”において歴史的にも現在のにも意義ある重要テーマにしうると考えたことによる。しかも、これは国家などの正

統性主張の背景に迫ることにもなり、東北アジア各地域、各国の相互理解を進めるための最も基礎的な理念的、観念的、情緒的基底が何かを解明できると考えたことによる。

2. 研究の目的

本研究は、東北アジア（中国、朝鮮半島、ソ連・ロシア、モンゴル、日本）におけるユートピア的理想及び政治理想の形成と展開、及びそれらが地域の在り方に与えている影響について、歴史学的手法を主として比較政治学的手法等を交えて総合的に解明することを目的とした。ユートピア的思想・各種政

治理想は、各国家・各地域の歴史認識・正統観念・世界観・アイデンティティー・宗教的理想と観念あるいは各種神話や神話化動向などに深く関わり、これらが現実政治やマスコミ・民衆の主張や観念・情念を裏打ちし、また政治的システムや社会的諸制度に影響を与えている。

中国の「反日」問題も、その奥底には現代中国の政治理念そのものに関わる問題が潜んでいて、国家理念、あるいは支配集団である共産党支配の正統性表明という根本問題に関わっている。しかも、この中国のみならず、ロシア・モンゴル・朝鮮半島・日本、いずれにも多様な思想・運動・観念があり、現代的にも大きな影響がみられる。これらを、地域の枠を超えて相互関連的に考察し、各地域の特色と共通性、及び影響・連鎖関係を解明することによって、地域の在り方を浮かび上がらせ、東北アジアの未来に関わる論点に結びつけていくことができるという観点に立って研究を進めることを目的とした。

3. 研究の方法

アジアが大きく変わった 19 世紀から、革命と戦争の時代でもあった 20 世紀前半を主な対象時代とし、その前後の時代をも広く視野に入れて、各地域の特色あるユートピア思想・政治理想をフォーカスして、歴史学的手法で形成と展開及び連鎖や影響関係を追い、また民族の自意識などについて比較政治学的手法あるいは文化人類学的手法などによって解明し、総合的に考察するという方法をとった。

関係する地域・国が多く、かつ使用言語も日本語、朝鮮語、中国語、ロシア語、モンゴル語などで多種である。そこで、研究代表者が中国・日本を主たる研究対象地域としつつ、それぞれの専門家による個別研究と比較・総合を図ることで、全体的総括が得られるようにすることにした。また関係専門家による講演や研究支援を受けることなどによって、事例と方法についての示唆も受けることを図った。

そしてこれらの研究遂行にとって、史料の発掘が不可欠であるが故に、中国の新聞記事の調査のために基本資料を購入し、ロシア・モンゴルなどでの、あるいは日本国内でのアーカイブや資料発掘を、研究進展のために必要不可欠な経費・作業とした。

4. 研究成果

東北アジアにおけるユートピア的理念や理想的政治思想が各地域の過去及び現在の在り方にどのような影響を与えているかという問題関心が、この地域の地域研究にとって極めて有効な方法たりうることに、この研究が現代的にもっている大きな社会的意義

を確認できた。以下本研究の研究成果報告書である山田勝芳編『東北アジアにおけるユートピア思想の展開と地域の在り方についての総合的研究』（2009 年）に述べたことを中心として具体的に述べることにする。

「ユートピア」という言葉が日本に入ってきたとき、社会主義者によって「空想」と訳されたことが、この言葉の日本における扱いを大きく規定したが、それは西欧「ユートピア」概念の展開からずれたものであったし、実はレーニンの理解ともずれていたことがわかった。

実際、レーニンはトマス・モアやフーリエなどをソ連の前に位置するユートピアンとして認めていたことがわかったが、そうしたボルシェビキ的共産主義ユートピアの内実を特に多面的に検討した。その結果、ソ連では検閲もなく、災害も事故もなく、人々は健康で、豚さえも病気にならないという「ユートピア」であることを国内外に示そうとしていたことを、詳細な検閲の実態把握によって明らかにした。この体制を支えたのは集権的党中央権力と末端「細胞」で運営される強固な組織を有するボルシェビキ的共産党であったが、そこでは、厳しい国民監視体制と言論の統制、流刑や死刑などの懲罰があり、密告も多かった。特にスターリン独裁・粛正の中で、シベリアの民族的ユートピアなどはその存在を許容されずに粛清されてしまったこともわかった。

そして、このプロレタリア独裁＝「労働専制」国家理念が、モンゴル・中国などに影響を与えたのみならず、コミンテルン・ソ連共産党の指導の下、それらの国に共産党政権が樹立された。こうしてできた各政権による共産主義ユートピアが東北アジアの政治・社会・思想全般を根本的に変えて、過去・現在の地域の在り方を大きく規制していることがわかる。

現中国においても監視体制と懲罰体制はソ連と同じであり、厳しくかつ巧妙になされているが、中国の場合、長い前史があることに大きな特色がある。相互監視と密告によって人民支配を強制的・自動的にコントロールするオートマチック・システムの伝統が古代の商鞅以来 2300 年以上に及んでおり、それが共産党支配に取り入れられていることもわかった。同様な監視体制をとっているソ連や東ドイツなどとは、この長い中国的伝統がそれらと異なるユートピア監視体制を中国共産党にとらせた可能性がある。

モンゴルにおいては、革命政権樹立時の牧畜民を主体とする社会体制の中で、結局のところ理想的政権樹立に向けて大きな力を発揮したのは共産党細胞であったことなども、アーカイブを駆使した研究によってわかった。

また、日本においては欧米に対抗する日本主義、アジア主義というユートピアが主張されたが、アジア主義者工藤忠による政治家・軍人・学者など 52 名の署名で東條内閣对中国政策の転換を求めた 1942 年 5 月の中国問題「建白書」という従来未見の新史料を発掘することができ、それによって対米英戦争緒戦の勝利に酔っていた日本の中で、翼賛政治の主要人物なども含めて对中国戦線解決への大きな危機意識があったことが浮かび上がり、これは同時に見られた日本主義者の学生団体による批判とともに、アジア主義者からの現実的批判として位置付けうることを述べた。

また幕末秋田藩で大きな仕事を進めた渡部斧松が開発した理想的村落の存在があり、いわば江戸時代末期の「新しき村」として位置付けうることも明らかにした。

以上、新史料発掘を伴う、多くの貴重な成果をあげることができた。以上の内容紹介からもうかがわれるように、これらの史料発掘と研究は社会的にも大きな意義を有する。また東北アジアの現在の社会体制にも濃い影を及ぼしている共産党政権の在り方に対する「ユートピア」解明という方法による切り口によって、それらの負の側面を改めて明確化できたとし、現状では新たな共産主義的理想は存在しないということも確認できた。このような現在のにも極めて大きなインパクトを有する研究なのである。

さらに、このユートピア研究遂行の中で、アジア主義者「工藤忠関係資料」（仮題）を発掘し、満洲国や 1920 年代の中国西北地域の甘肅などの地域研究を推進できる史資料が得られたことは、学界全体への貢献にもなりうるのみならず、国際的意義も大きい。またこれによって、今後、「ユートピア」問題に大きく関わる満洲国問題にも深く切り込むことができる見通しが得られたので、さらに検討を進めるつもりである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 13 件)

- ① 山田勝芳、「東北アジアにおけるユートピア思想と地域の在り方」の総括—この研究で何が得られたか?—、山田勝芳編『東北アジアにおけるユートピア思想の展開と地域の在り方についての総合的研究』、2009 年、1~26 頁、査読無
- ② 寺山恭輔、ソ連におけるメディアと検閲—ポリシェビキの描くユートピア—: 序論、山田勝芳編『東北アジアにお

けるユートピア思想の展開と地域の在り方についての総合的研究』、2009 年、27~71 頁、査読無

- ③ 高倉浩樹、Идеал и реальность Саха интеллигенции и этнографические исследования с конца 19-го века до 1930-х годов、山田勝芳編『東北アジアにおけるユートピア思想の展開と地域の在り方についての総合的研究』、2009 年、73~86 頁、査読無
- ④ 岡洋樹、人民革命期モンゴルにおける地方行政統治、山田勝芳編『東北アジアにおけるユートピア思想の展開と地域の在り方についての総合的研究』、2009 年、87~109 頁、査読無
- ⑤ 平川新、渡部斧松のユートピア—八郎潟湖畔の新しき村をめぐる—、山田勝芳編『東北アジアにおけるユートピア思想の展開と地域の在り方についての総合的研究』、2009 年、110~122 頁、査読無
- ⑥ 山田勝芳、工藤忠主導 1942 年 5 月の中国問題「建白書」の研究、山田勝芳編『東北アジアにおけるユートピア思想の展開と地域の在り方についての総合的研究』、2009 年、123~143 頁、査読無
- ⑦ 寺山恭輔、ソ連における対日戦勝記念日、川島真、貴志俊彦編『資料で読む世界の 8 月 15 日』(山川出版社)、2008 年、155~166 頁、査読有
- ⑧ 山田勝芳、一九二〇年中国共産党成立期の一史料について—工藤忠甘肅報告研究の一—、集刊東洋学、第 100 号、2008 年、306~325 頁、査読有
- ⑨ 岡洋樹、十九世紀ハルハ・モンゴルの布告文にみる地方行政、細谷良夫編『清朝史研究の新たなる地平 フィールドと文書を追って』(山川出版社)、2008 年、288~309 頁、査読有
- ⑩ 寺山恭輔、革命ロシアからの密使と中国—ミュレル、ポポフ、ヴィレンスキー・シビリャコフ、ユーリン・ミッシェン、ポレヴォイ、ストヤノヴィチの活動を中心に—、初期コミンテルンと東アジア研究会編『初期コミンテルンと東アジア』(不二出版)、2007 年、177~231 頁、査読有
- ⑪ 山田勝芳、19~20 世紀東北アジア「ユートピア」研究序論、東北アジア研究、第 11 号、2007 年、1~20 頁、査読有
- ⑫ 高倉浩樹、1920-30 年代におけるサハの知識人と民族学的研究—ロシア人類学史における断章、東北アジア研究、第 9 号、2005 年、37~58 頁、査読有
- ⑬ 平川新、郡中公共圏の形成—郡中議定と

権力、日本史研究、第 511 号、2005 年、
41～60 頁、査読有

〔学会発表〕（計 0 件）

〔図書〕（計 3 件）

- ① 山田勝芳編、『東北アジアにおけるユーロ
ピア思想の展開と地域の在り方について
の総合的研究』、本科学研究費補助金研究
成果報告書、2009 年、全 143 頁
- ② 高倉浩樹・佐々木史郎編、『ポスト社会主
義人類学の射程』、国立民族学博物館、
国立民族学博物館調査報告 78、2008
年、全 551 頁
- ③ 平川新著、『日本の歴史 12 開国への道』、
小学館、2008 年、全 358 頁

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

○取得状況（計 0 件）

〔その他〕

新聞記事：

山田勝芳「工藤忠の歴史的役割 1～5」（『東
奥日報』2007 年 11 月 19 日～11 月 24 日夕
刊）

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山田 勝芳 (YAMADA KATSUYOSHI)

東北大学・名誉教授

研究者番号：20002553

(2) 研究分担者

平川 新 (HIRAKAWA ARATA)

東北大学・東北アジア研究センター・教授

研究者番号：90142900

岡 洋樹 (OKA HIROKI)

東北大学・東北アジア研究センター・教授

研究者番号：00223991

寺山 恭輔 (TERAYAMA KYOUSUKE)

東北大学・東北アジア研究センター・

准教授

研究者番号：00284563

高倉 浩樹 (TAKAKURA HIROKI)

東北大学・東北アジア研究センター・

准教授

研究者番号：00305400

(3) 連携研究者